

行政視察報告書

令和 2 年 1 月 29 日

会 派 名 日本共産党江南市議員団

会派代表者 掛布 まち子

参加者 (掛布まち子、三輪陽子)

行政視察の結果について、次のとおり報告します。

①みよし市図書館学習交流プラザの整備費、維持管理費について

年月日	令和 2 年 1 月 16 日 (木)
視察時間	午後 1 時 00 分～午後 1 時 50 分
視 察 先	愛知県みよし市、みよし市図書館学習交流プラザ
視察項目	みよし市図書館学習交流プラザの整備費、維持管理費について

②みよし市の公共交通について

年月日	令和 2 年 1 月 16 日 (木)
視察時間	午後 1 時 50 分～午後 2 時 45 分
視 察 先	愛知県みよし市
視察項目	みよし市の公共交通について

③みよし市の学校給食について

年月日	令和 2 年 1 月 16 日 (木)
視察時間	午後 2 時 45 分～午後 3 時 30 分
視 察 先	愛知県みよし市、みよし市学校給食センター
視察項目	みよし市の学校給食について

行政視察報告書

①みよし市図書館学習交流プラザの整備費、維持管理費について

年月日	令和 2 年 1 月 16 日 (木)
視察時間	午後 1 時 00 分～午後 1 時 50 分
視察先	愛知県みよし市、みよし市図書館学習交流プラザ
視察項目	みよし市図書館学習交流プラザの整備費、維持管理費について
■目的 2016 年に開館したみよし市図書館学習交流プラザ（図書館と生涯学習センターの複合施設）は、江南市が建設を予定する図書館を含む複合公共施設と、延床面積が全く同じ。地下 1 階（閉架書庫）・地上 3 階の鉄筋コンクリート造 4 階層構造も類似し、建設時期も一番近い同種同程度の類似施設であるため、総事業費や施設の維持管理経費、駐車場の整備状況はどうなっているのかを確認するため。	
■内容 「サンライブ」は市役所に隣接した市有地に、みよし市が建設した複合公共施設。設計工事費、周辺整備費、図書を除く備品購入など諸経費の合計総事業費は 29 億 8500 万円。施設の維持費用（運営費、光熱水費を除く）は H30 年度決算値で 3074 万円とのことだった。江南市の 12 月議会補正予算で提案された図書館を含む布袋駅東複合公共施設の用地費を除く初期投資額は 43 億 7770 万円。東京オリンピック関連で生じた建設物価高騰の影響度や建物の細部構造の違いだけでは、理解できない。みよし市（約 30 億円）と江南市（約 43 億円）の整備額のちがいに、ますます疑問が膨らんだ。 維持管理経費の違いはさらに深刻で、みよし市（年間 3074 万円）に対し、江南市（年間約 7020 万円）である。どう考えれば説明がつくのか。疑問が深まった。江南市の布袋駅東複合公共施設は P F I に準じた整備手法をとれば、民間のノウハウ、活力の導入で財政縮減効果が見込めるとして進め、財政縮減効果（V F M）が 24.6% 発現するとの説明だったが、現状では財政縮減どころか、逆に財政支出が増大する恐れがでている。 みよし市サンライブの駐車場の整備状況は、敷地内 33 台、敷地外 40 台、隣接の市役所駐車場の共有で 230 台の計 303 台。さらにコミュニティバスのバス停の乗降が年間 1 万 6 千人とのことだった。布袋駅東複合公共施設の駐車場がわずか 100 台ではあまりにも少ないだけでなく、みよし市のように、イベント時の市役所駐車場共有という計画性もないことが分かった。	

■所感

布袋駅東複合公共施設の整備費、維持管理経費の多さ、駐車場の不足問題について、同種同規模のみよし市サンライズを視察研修し、施設も見学し実際の決算額も確認し、江南市の計画の疑問・問題点がいっそう深まった。PFI的手法によって、市民参加での整備が妨げられ、事業者への配慮が優先され情報公開も不十分になっている。整備手法の根本的な見直しが必要なことが分かった。

行政視察報告書

②みよし市の公共交通について

年月日	令和 2 年 1 月 16 日 (木)
視察時間	午後 1 時 50 分～午後 2 時 45 分
視察先	愛知県みよし市
視察項目	みよし市の公共交通について
■目的 江南市において、市民の要望も強く整備が必要なコミュニティバスの実現性、必要経費、コミュニティバスと乗り合いタクシーの連携などの運行手法について、行政面積が同じで、鉄道や路線バスの運行状況なども、非常によく似た条件のみよし市で学ぶことで、江南市におけるコミュニティバス実現の参考にするため。	
■内容 みよし市は、行政面積が江南市とほぼ同じ。市北部を名鉄豊田線が東西に横断し、市中心部では隣接市町を結ぶ名鉄バス 4 路線が運行しているなど、江南市とよく似た条件の自治体である。民間バス路線を補完する公共交通として、市のコミュニティバス「さんさんバス」(1 乗車 100 円) 2 路線バス 6 台が、市内を縦断するように 1 日各路線 25 便ずつ運行。年間利用者は約 28 万人、1 便平均の利用者は約 15 人に上っていた。バス利便地域をバス停から基本的に 300m～500m の範囲内としてバス停を設置し、人口カバー率は 96%。さらに、バス停から遠い交通不便地域からも「さんさんバス」に乗り継ぎできるよう「乗り合いタクシー」を運行しており、乗り合いタクシーと「さんさんバス」を乗り継いでも 100 円で利用できる。 「さんさんバス」も乗り合いタクシーも委託先が同じタクシー事業者のため、バスとタクシーが連携し、スムーズに乗り継ぎできるシステムとなっていて感心した。 「さんさんバス」利用の 20 分前までにタクシー会社に電話予約し、自宅近くのタクシー乗降場で待つと乗り合いタクシーが来てバス停まで運んでくれ、タクシー内で 100 円払って乗り継ぎ券を受け取り、その券で「さんさんバス」に乗ることができる。帰りは、「さんさんバス」に 100 円を払って乗り、運転手に●●バス停で乗り合いタクシーに乗り継ぐことを告げると、バス運転手がタクシー会社に連絡してくれて、バス停で待っている乗り合いタクシーで帰ることができる。 また、市内を走る愛知学泉大学スクールバスに 100 円で一般の人でも乗ることができたり、隣接市の病院への「さんさんバス」乗り入れや隣接市のコミュニティバスがみよし市内に乗り入れたり、様々に市民の生活の足確保策が考えられていた。さらに約 19 年前からバスロケーションシステム(バス運行情報・位置情報サービス)を導入しており、パソコンやスマホから、乗りたいバスの運行情報を手軽に確認し、バス停での無駄な待ち時間をなくすることができるようになっていた。	

徹底した公共交通網の整備・充実を行っても経費は、「さんさんバス」と乗り合いタクシー合計の年間運行経費は、H30年度で1億1159万円。料金収入（2600万円）と国補助金（2141万円）をひいた年間運行負担金は6846万円だった。

バス車両はみよし市が購入しており、この購入費が運行負担金には含まれず、実質負担はさらに上回る額になるが、思ったより少ない印象を受けた。市域が江南市と同様に狭くコンパクトにまとまっているため、効率よくバスを運行できるのだと思われる。

みよし市のタクシー券補助制度は障害者に対するものだけで、高齢者へのタクシー券補助を行っておらず意外だった。バス停まで歩ける人は歩いてもらう方針のようだ。乗り合いタクシーの契約は利用者1乗車につき285円の市負担金だった。バス停が多いためか、乗り合いタクシー利用者が少ないのは不思議だった。乗り合いタクシー乗車者が多い地点を、コミュニティバス路線に取り込んできた経緯があるためと思われた。

担当者に今後の方向性をお聞きしたところ、来年10月にバス路線の再編を予定しており、市民の声を聞いて長大な現ルートを短縮しバスを6台から9台に増やして不満足な市民をなくすことを目指す。市町をつなぐ路線においては、バス購入費にも国庫補助が出るようになるのを利用するとのことだった。

■所感

豊田市の西隣にあり、トヨタ自動車工場がいくつもある自動車のまち、みよし市が、市内全域を対象にこんなにも公共交通の充実に力を注いでいたことに非常に驚いた。みよし市においては、コミュニティバスが基幹交通の位置づけとなっていた。常に市民の利便性向上を考え、また国制度も研究し、路線やシステムを向上させてきた結果、現在の充実した公共交通網の整備状況に至っていることに衝撃を受けた。さらに高齢化と自動運転技術の向上が進むことも担当者は見据えており、江南市においても、将来を見据え一刻も早い、コミュニティバスを中心とした市内全域の公共交通網の整備が必要なことを確信した。

行政視察報告書

③みよし市の学校給食について

年月日	令和 2 年 1 月 16 日 (木)
視察時間	午後 2 時 45 分～午後 3 時 30 分
視察先	愛知県みよし市、みよし市学校給食センター
視察項目	みよし市の学校給食について
■目的 江南市において、学校給食センターの建て替えが急務となっており、また、調理業務の民間委託も計画されている。これらの参考にするため、また保育園給食をセンターから配送しているみよし市の現状の課題を確認するため。	
■内容 みよし市の現学校給食センターは市内中心部に 1 か所のみ。小学校 8 校中学校 4 校、公立保育園 7 園（1000 食）の合計 7200 食を作っている。竣工は 2003 年 4 月。新しい施設とは言えないが建設当時の基準にもとづいた構造でドライシステムが採用されていた。現在までに、問題となったり天井の改修、空調設備の改修を順次進めていた。建設当時は、アレルギー対応給食の位置づけがなかったため、江南市と同様に、アレルギーを持つ児童生徒に対しては、献立に含まれる詳しいアレルギー物質表を配布して注意喚起を行い、無配膳の対応を行っており、今後の検討課題となっていた。 変わっていたのは、調理業務と食材調達を民間営利企業ではない「みよし市給食協会」（学校給食センター内にある）に委託していたことだ。三河地域の自治体ではこのような給食協会があるところが多いそうである。調理員は全員が「給食協会」の所属。市正規職員と違うのは 7 時間勤務となっていたこと。 みよし市学校給食センターでは以前から保育園給食も作っており、その流れですと保育園にも配食している。市栄養士が、県栄養士作成の小中学校むけ献立を園児向けに手直しをしたり、刻み方や味付けを園児向けに変えている。保育園内の配膳室でも、配送された給食を衛生管理に注意して刻み直したり、小中学校が長期休暇中など学校給食センターの稼働しない日は、簡易なメニューを各園で調理しているようだ。江南市は、保育園給食のセンター化を中止したが、やはり課題が大きいと感じた。みよし市の給食食器は、環境に配慮した強化磁器のお椀とお皿だった。江南市の学校では依然として、メラミン食器となっている。新センターになった際には、ぜひ強化磁器食器に変更してほしいものだ。	

■所感

みよし市の学校給食センターは、市内1か所7000食調理だが市中心部にあり、調理業務の民間委託といっても、営利の民間事業者ではなく非営利の給食協会となっていたことが変わっていた。保育園給食のセンターからの配送は、やはり課題が大きく自園調理が安全と感じた。